

乳幼児健診におけるスクリーニングのための 発達テストの応用に関する研究

平 山 宗 宏 （東京大学医学部）

乳幼児健診を充実してゆくためにその回数の増加が必要であるが、一方小児科医の不足による制約も大きい。このため健診にあっては保健婦によるスクリーニングを行ない、心身の健康に問題のありうるケースのみを専門医の前に送る方式が有用と考えられる。このためのスクリーニングとしては平均値を基準として年月齢ごとに評価採点する従来の形式の発達テストは不適當であり、個人差の幅を重視し、かつ集団を対象に実施可能な方式が望まれる。

この目的のためにはデンバー式発達テストおよびそのプレスクリーニングテストが適當な方法と考えられたので、その検討を行ない、わが国への導入の適否および実用上の利点等について成績をとりまとめたので報告する。

↓ **検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用 ↓
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

乳幼児健診を充実してゆくためにその回数の増加が必要であるが、一方小児科医の不足による制約も大きい。このため健診にあっては保健婦によるスクリーニングを行ない、心身の健康に問題のありうるケースのみを専門医の前に送る方式が有用と考えられる。このためのスクリーニングとしては平均値を基準として年月齢ごとに評価採点する従来の形式の発達テストは不適當であり、個人差の幅を重視し、かつ集団を対象に実施可能な方式が望まれる。

この目的のためにはデンバー式発達テストおよびそのプレスクリーニングテストが適當な方法と考えられたので、その検討を行ない、わが国への導入の適否および実用上の利点等について成績をとりまとめたので報告する。